



患者さんの生活に寄り添う 看護実践を心がけています

先輩看護師

第1病棟

すざはら あいり
杉原 愛理

私が所属している第1病棟は、統合失調症や双極性障害などの精神疾患を持つ患者さんが入院しています。主な治療は、薬物療法や精神療法ですが、患者さんやご家族が疾患に対して正しく理解することが大切です。しかし、患者さんの中には、自分の身体の異常を自覚できなかったり、病状を上手に伝えられなかったりします。そのため一人ひとりの状態をよく観察して、わずかな変化に気づくことは看護師の重要な役割だと感じています。患者さんの思いをよく聴き、患者さんを中心とした多職種連携を行い、個々の状態に合わせたチーム医療が提供できるよう治療をすすめています。様々な背景を持つ患者さんと信頼関係を構築する難しさはありますが、対話を大事にして取り組んでいます。また、退院前訪問を実施し患者さんの生活に寄り添う看護実践を心がけています。患者さんが退院やその後の生活に向けて頑張る姿が私の看護のやりがいです。

Senior nurse



看護部長からのメッセージ

人の感情に向き合う“優しい強靭さ”

皆さんは、精神科看護にどのようなイメージをお持ちでしょうか？

精神科看護では、多くの場合、患者さんやご家族の負の感情（希死念慮、拒絶、妄想、怒り、自傷、他害等）にさらされ、その事象と向き合うことから始まり、人間関係としては、マイナスからのスタートであることを余儀なくされます。

そのため、精神科領域特有の理論に裏打ちされた実践力を身につける必要があります。そして、何より、自分自身の感情と対峙し、人の感情に向き合う優しい強靭さを

身につけることが大切です。

患者さんをまるごと受け止め、認め合うプロセスの中で、看護をしている私たち自身が、自分の弱さや強さと真摯に向き合い続ける精神科看護は、人として看護師として成長できる素晴らしい仕事です。

看護部のスローガンは『UNLESS ACTION』です。一人ひとりが現場でアクションを起こす一行動する一ということを大事にしています。“チーム精神医療センター”の一員として、人権を尊重した安全、安心な信頼される看護が実践できる看護師への成長を支援します。



福山 康恵
副病院長兼看護部長